

# 新たな備えサポート隊 in 松山

## 2023 年度活動報告書

2023 年 11 月

「新たな備えサポート隊 in 松山」実行委員会事務局

### 目次

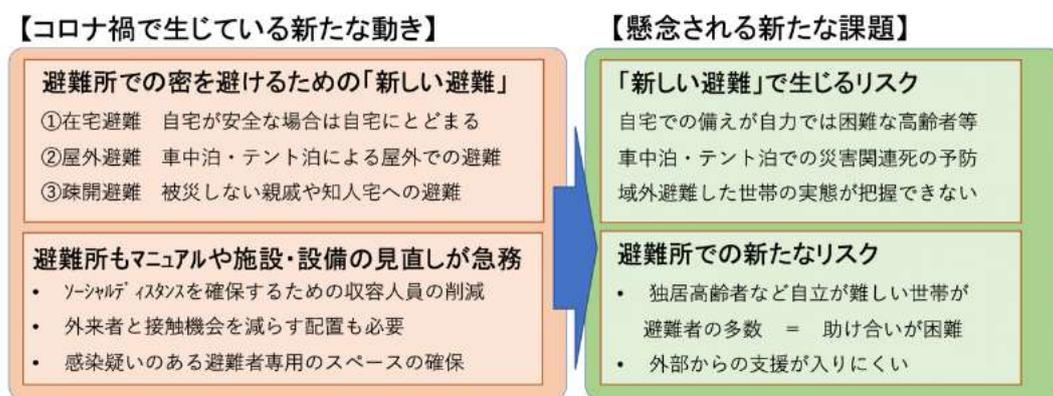
1.	活動の経過.....	2
1-1	新たな備えサポート隊.....	2
1-2	新たな備えサポート隊 in 松山.....	3
2.	新たな備えサポーター養成研修.....	4
2-1	募集要項.....	4
2-2	サポーター養成の流れ.....	5
2-3	動画視聴研修.....	6
2-4	実技講習会.....	7
2-5	サポーター養成研修実績.....	8
3.	新たな備えサポーターの派遣.....	8
3-1	サポーター派遣の経緯.....	8
3-2	サポーター派遣の流れ.....	8
3-3	サポーター派遣実績.....	10
4.	アセスメント.....	11
5.	活動の感想・評価.....	14
5-1	活動の感想.....	14
5-2	活動の評価.....	15

# 1. 活動の経過

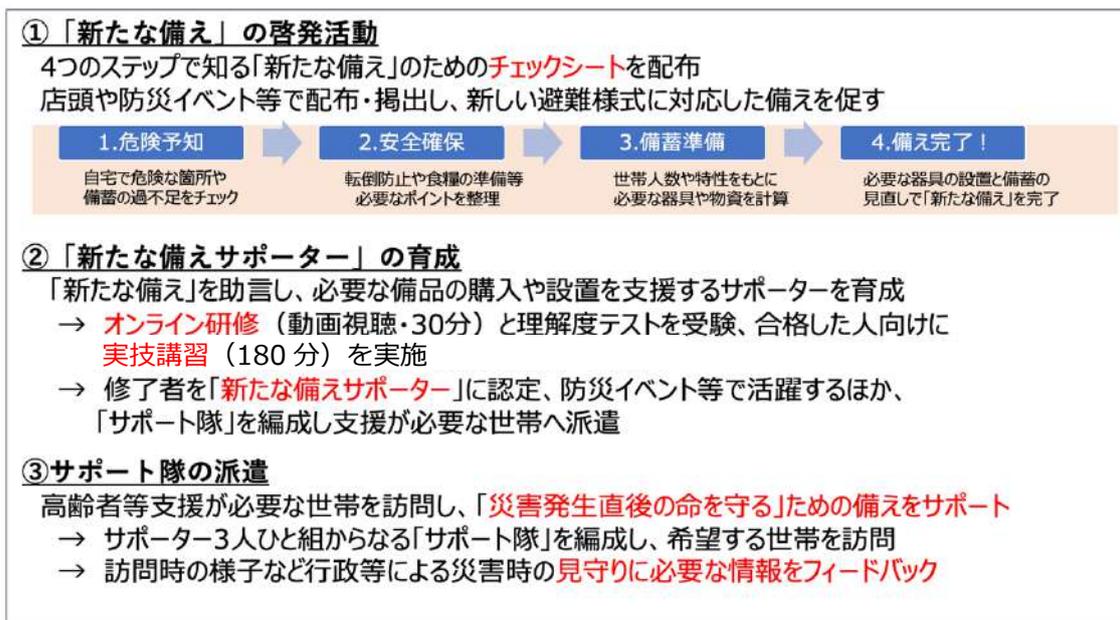
## 1-1 新たな備えサポート隊

コロナ禍を経て、避難所での受入や運営ルールが大きく変化し、避難所が中心だったこれまでの支援から、自宅で安心して過ごすための取り組みへ防災の軸を変える必要が生じている。

新たな事態に対応するため、自宅を訪問して「在宅避難」に向けた家具転倒防止や備蓄支援、「屋外避難」や「疎開避難」のための備えの提案を行う「新たな備えサポート隊」を編成し、自力で「新しい避難」ができない高齢世帯等での備えを強化することで、誰もが「新しい備え」への対応が可能になる取り組みを構想した。



新たな災害対応と課題



新たな備えサポート隊の活動内容

## 1-2 新たな備えサポート隊 in 松山

社会の要請に則した新たな備えの啓発を行い、同時に対象世帯をサポートしていくためのより確実性の高い“ネットワークの構築”と“支援策”を適えるための産官学民の地域全体での取組みを昨年度に引き続き愛媛県松山市で実施した。

DCM株式会社が発起人となって、愛媛県松山市で地元企業等を中心とした実行委員会が2022年6月27日に発足し、一般財団法人ダイバーシティ研究所が事務局を担当した。2022年7月25日には、愛媛県松山市、愛媛大学防災情報研究センターと事業協定を締結<sup>1</sup>し、産官学民協働による事業として取り組み、松山市内の56世帯に対して防災用品の提供等を実施した（2022年度報告書 <https://sonaetai.net/#matsuyama>）。



事業協定調印式（2022年7月25日）<sup>1)</sup>  
左より愛媛大学防災情報研究センター（バンダリ・ネトラ・プラカシュセンター長）、愛媛県松山市（野志克仁松山市長）、実行委員会（発起人：DCM株式会社 中川真行取締役）

2023年度においても同様の体制で実施し、より多くの世帯への支援ができるよう取り組んだ。

名 称	新たな備えサポート隊 in 松山
目 的	① 災害の多発化やコロナ禍で求められる「新たな備え」の必要性を広める ② 「新たな備え」について知識と技術を持った人材「新たな備えサポート隊」を育成する ③ 高齢者など自力で「新たな備え」が難しい世帯へサポート隊を派遣し、自宅での備えを支援する
日 時	2023年6月～10月（うち、サポート隊の派遣は10月）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新たな備え」の考え方や支援が必要な世帯についての基礎知識を学ぶ「オンライン研修プログラム」の提供（8月から受講開始）</li> <li>高齢者等支援が必要な世帯を訪問し、支援計画の立案・支援の提供を行うための「実技講習プログラム」の提供（9月に開催）</li> <li>松山市役所等を通して支援希望世帯を募り、申し込みのあった世帯から対象とする100世帯を訪問して支援計画を策定（8～9月）</li> <li>支援計画に沿った支援を提供（10～11月）</li> <li>支援の提供や訪問時に行ったヒアリング等から、「新たな備え」に向けた課題や今後の取り組みについて提言を発表（11月）</li> </ul>
主 催	新たな備えサポート隊 in 松山実行委員会 ＜構成団体＞ 株式会社あいテレビ、株式会社伊予銀行、愛媛トヨペット株式会社、株式会社愛媛新聞社、株式会社輝城、久保豊株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、特定非営利活動法人松山さかのうえ日本語学校、ソフトバンク株式会社、株式会社ダイキアキス、一般財団法人ダイバーシティ研究所、愛媛県中予地区郵便局長会、株式会社寺小屋グループ、DCM株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、南海放送株式会社、西日本電信電話株式会社、三井住友信託銀行株式会社（2023年9月現在・50音順）

### 新たな備えサポート隊 in 松山 2023年度実施計画・体制

<sup>1</sup> [https://www.dcm-hldgs.co.jp/grp/pdf/grp/csr/csr\\_sonaesupport.pdf](https://www.dcm-hldgs.co.jp/grp/pdf/grp/csr/csr_sonaesupport.pdf)

## 2. 新たな備えサポーター養成研修

### 2-1 募集要項

「新しい避難」が難しい高齢者等の世帯に対し「在宅避難」に向けた家具転倒防止や備蓄支援の提案を行う「新たな備えサポート隊」として、養成研修を受け「新たな備えサポーター」として認定された者を派遣した。原則として防災士、社会福祉士、大学生を募集対象とし、3名で訪ねることで、より効果的な訪問となることを図った。

以下に該当する方を募集します。

1. 「新たな備え」に賛同し、活動に協力してくださる方
2. 以下の有資格者または所属の方（カッコ内は求められる役割）
  - 防災士（防災の知識を生かして訪問宅のリスクを評価、必要な備えを助言する）
  - 社会福祉士（支援を必要とする世帯の状況を把握し必要なサポートを見極める）
  - 大学生（サポート隊での経験を生かして地域防災の担い手となる）
3. 2023年10月に愛媛県松山市において活動可能な方（原則として土、日曜が活動日）
4. 所定の研修プログラムを受講し、修了できる方

サポーターは以下の流れに沿って活動いただきます。

#### 1. サポーターの申込み

- ① サポーターを希望される方は、QRコードを読み込み、空メール（件名、本文なしのメール）を送信してください。（または 直接 [matsuyama@sonaetai.net](mailto:matsuyama@sonaetai.net) へ空メールを送信）
- ② 登録用 Web フォームの URL を自動返信メールで通知します。必要事項（氏名、連絡先、実技研修の受講希望日、活動希望日など）を入力後、送信ボタンを押すとサポーターの申込みが完了します。

#### 2. オンライン研修プログラムの受講

- ① サポーターの申込み後、研修動画視聴サイトの URL を自動返信メールで通知します。
- ② 研修動画視聴サイトより各自、動画（合計約 30 分）を視聴し、活動に関する基本的な事柄を学び、自己採点によるテストを受講します。
- ③ テストの自己採点後、研修完了ボタンを押すとオンライン研修が完了します。

#### 3. 実技講習プログラムの受講

- ・ 対面式による実技講習（9月16日（土）、17日（日）の午前または午後いずれか、3時間程度（松山市美沢 1-9-1））を受講します。

#### 4. 支援世帯訪問

- ① 事務局で支援世帯とサポーターとの訪問希望日のマッチングを行い、訪問日を依頼します。
- ② 訪問日は原則として10月の土曜・日曜となり、サポーター3名一組で数件の支援世帯を訪問します。
- ③ 当日、会場（松山市美沢 1-9-1）へ集合し、事前説明を受けた後、事務局が用意した自動車へ備品を積み込み、支援世帯宅へ移動します。（サポーターは、認定証、ビブスを貸与します）

#### 5. 支援内容

- ・ 家具転倒防止器具の取り付け、防災用品の提供、防災情報の提供、アセスメントなどの支援を行います。（チェックシートに従い、支援を行い、記録は貸与するタブレット（iPad）に残します）

新たな備えサポーター募集要項（詳細は <https://sonaetai.net/matsuyama/> 参照）

## 2-2 サポーター養成の流れ

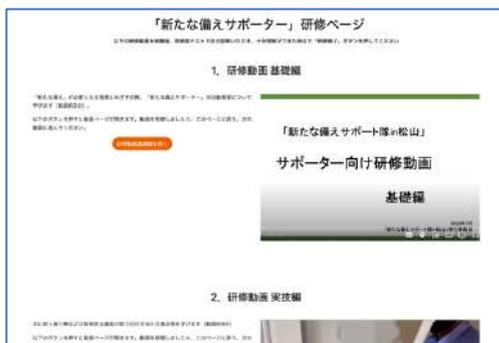
サポーター養成は以下の手順で行われる。

1. サポーター登録希望者はQRコードまたは直接、[matsuyama@sonaetai.net](mailto:matsuyama@sonaetai.net) へ空メール（件名、本文なしメール）を送る
2. サポーター登録希望者へ自動返信メールでサポーター登録フォームのURLを通知
3. サポーター登録希望者はサポーター登録フォームに入力、kintone（クラウドデータベース）の「サポーターDB」に自動登録される
4. 登録後、自動返信メールで動画研修ページが届き、動画による研修を各自行う



登録用 QR コード

サポーター登録フォーム



動画視聴研修ページ

5. 事務局で実技講習会参加日程を調整後、登録者に通知
6. 実技講習会に参加後、「新たな備えサポート隊」サポーターとして認定



実技講習会



あいテレビの取材（9月16日）

## 2-3 動画視聴研修

サポーター登録希望者は最初に動画視聴研修を受ける。研修 Web ページ掲載の研修動画（4本）視聴と自己採点による理解度テストを終了後、同ページにある研修終了のボタンを押すことで「サポーターDB」に動画視聴研修完了が記録される。

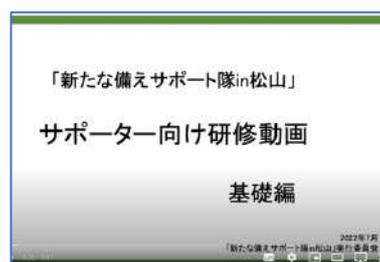
「新たな備えサポーター」研修ページ

<https://sonaetai.net/matsuyama/tr98304c1.html>

視聴する動画は以下の3本で当活動に必要な知識・スキルを習得する内容となっている。

### 1. 研修動画 基礎編

「新たな備え」が必要となる背景とめざす目標、「新たな備えサポーター」の活動概要について学ぶ（約9分）。



### 2. 研修動画 実技編

突っ張り棒などの転倒防止器具の取り付け方法と注意点等を学ぶ（約6分）。

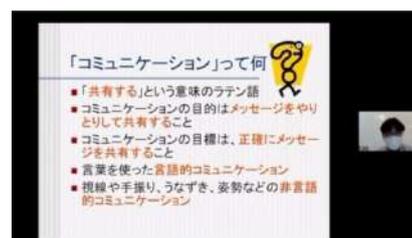


株式会社輝城

栗田雅則代表取締役 監修・出演

### 3. 研修動画 コミュニケーション編

訪問先の方と円滑なコミュニケーションをとるための技法と注意点を学ぶ（約14分）。



一般社団法人愛媛県社会福祉会

鈴木正幸事務局長 監修・出演

動画視聴後、動画内容の理解度テストとして動画の内容に関連する8問の選択式テストを受ける。自己採点で十分理解ができたと各自が判断後、研修ページの「研修終了」ボタンを押して動画視聴完了を登録する。



理解度テスト画面

## 2-4 実技講習会

実技講習会は約3時間実施し、事業の概要説明、突っ張り棒等の取り付け講習、アセスメント（生活状況確認）、記録用タブレット使用法、訪問時の対応ロールプレイを行い、実際の訪問で求められる知識・スキルを実践的に学んだ。

所用時間	項目	内容
15分	事業説明	事業の背景と活動概要説明
30分	訪問時の留意点とアセスメント講習1	訪問の流れと注意事項説明 アセスメントの健康、共助、公助項目を説明
15分	アセスメント講習2	アセスメントの災害対応、情報取得項目を説明
10分	休憩	
30分	実技講習	転倒防止用具の実測方法と取付講習
30分	データ入力講習	iPadを用いた入力方法講習
5分	休憩	
30分	訪問ロールプレイング	2グループに分けて実際の訪問の流れを体験するロールプレイ実施と意見交換
15分	今後の流れ説明	訪問活動の説明と質疑応答

### 開催プログラム

会場は「DCM株式会社 ゆめ・みらい 住まいの創造かん」（松山市美沢1-9-1）で行い、設置の取り付け実技デモンストレーション家具等を用いて効果的な講習ができた。

アセスメント講習として、社会福祉士計4名（9/16 2名、9/17 2名）および松山市防災・危機管理課職員から説明があった。

突っ張り棒等の防災用品取り付けでは、DCM株式会社 浅井長幸指導のもと、以下の講習を実施した。

- 「取り付け実技マニュアル」をもとに、防災用品取り付けの流れと諸注意点を説明
- 転倒防止用具の取り付けを第一優先とし、できない場合は防災用品の提供を行うことを強調
- マニュアルにしたがって、屋内外の点検方法を説明後、転倒防止用具の取り付け講習を実施
- 講師が実際に取り付けを行い、その後、受講者が実技を実施



取り付け実技  
デモンストレーション用家具



防災用品取り付け講習

訪問時の対応ロールプレイでは、以下の講習を実施した。

- 「訪問マニュアル」をもとに、支援世帯への訪問手順を3名のサポーターと1名の世帯主（スタッフが演じる）が模擬的に10分程度で実施
- 到着して挨拶し、転倒防止用具取り付けの検討、世帯状況の聞き取り、タブレットへの情報入力を模擬的に行い、取り付け用具を設置後、退去までを行う
- 最初に講師3名で模範的にロールプレイを行った後に、受講者が3人組となり、上記の手順で訪問を体験。終了後に講師や体験者からのコメントおよび全員で気づきを共有して振り返りを行う



訪問時の対応ロールプレイ（訪問時対応、家屋の点検）

## 2-5 サポーター養成研修実績

実技講習会を9月16、17日午前・午後の4回実施した。受講者は16日午前7名・午後5名、16日午前9名・午後4名であった。実技講習会受講者、昨年度認定者等を含めて合計85名を「新たな備えサポート隊」2023年度サポーターとして認定した。内訳は、防災士：51名、社会福祉士：4名、学生：18名、その他：12名であり、そのうち実行委員会参加企業から(株)伊予銀行：3名、愛媛トヨペット(株)：6名、(株)輝城：6名、DCM(株)：10名、東京海上日動火災保険(株)：1名の参加があった。

## 3. 新たな備えサポーターの派遣

### 3-1 サポーター派遣の経緯

今年度は合計100世帯への支援実施を目標とし、松山市防災・危機管理課の協力により、松山市内の浮穴、石井東、石井西、久谷、久米、小野、余土、垣生、生石、味生の計10地区を今年度の対象地区に選定し、各地区の自主防災組織、民生委員、防災士等を通じて支援の募集を募った。支援申込み用紙を防災・危機管理課で取りまとめ、当事務局で支援先情報のデータベース入力や訪問日程の調整を行った。

### 3-2 サポーター派遣の流れ

サポーターの派遣を10～11月中の計13日間行った。派遣本部である「DCM株式会社 ゆめ・みらい 住まいの創造かん」へ集合し説明を受けた後、防災用品取り付けに必要な機材等を事務局で用意したレンタカーに積み込んで指定された地域へ向かった。

地域の防災士、民生委員等コーディネーターと合流し、希望があった世帯を訪問して防災用品（主に家具転倒防止の突っ張り棒）取り付けを実施した。防災用品は合計5,000円までの範囲で無償提供し、ソフトバンク株式会社から無償貸与を受けたiPadを用いて、訪問世帯や提供した防災用品の情報をクラウドデータベースに記録した。



出発前に全員集合



防災用品・機材を積みこんで出発



支援宅への訪問



転倒防止器具の取り付け



防災資料の説明

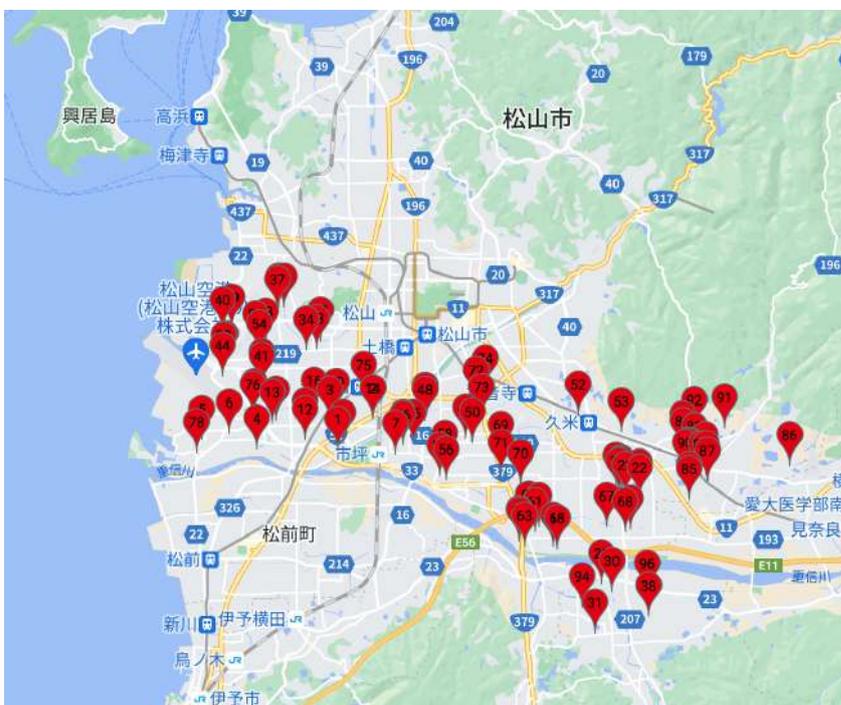


備蓄品等の提供

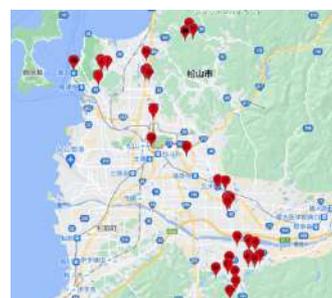
サポーターの活動風景

### 3-3 サポーター派遣実績

10～11月の13日間、のべ109名のサポーター派遣を行い、計100世帯に防災用品を取り付けた。下図の赤いピンは訪問世帯を示している。



2023 年度訪問先一覧



(参考: 2022 年度実績)

訪問日	訪問世帯	派遣サポーター
10月1日(日)	世帯数: 12	チーム数: 4、サポーター合計: 11
10月7日(土)	世帯数: 6	チーム数: 2、サポーター合計: 6
10月8日(日)	世帯数: 11	チーム数: 4、サポーター合計: 12
10月9日(祝)	世帯数: 6	チーム数: 2、サポーター合計: 6
10月14日(土)	世帯数: 9	チーム数: 4、サポーター合計: 12
10月15日(日)	世帯数: 6	チーム数: 2、サポーター合計: 6
10月21日(土)	世帯数: 11	チーム数: 4、サポーター合計: 17
10月22日(日)	世帯数: 7	チーム数: 3、サポーター合計: 9
10月27日(金)	世帯数: 3	チーム数: 1、サポーター合計: 4
10月28日(土)	世帯数: 11	チーム数: 3、サポーター合計: 9
10月29日(日)	世帯数: 8	チーム数: 3、サポーター合計: 11
11月24日(金)	世帯数: 5	チーム数: 1、サポーター合計: 2
11月25日(土)	世帯数: 5	チーム数: 2、サポーター合計: 4
合計	100世帯	のべチーム数: 35、のべサポーター数: 109

訪問世帯およびサポーター派遣詳細

## 4. アセスメント

支援先世帯の防災に関する状況を可能な範囲で確認し記録するアセスメント調査を防災用品取り付けと同時に実施した。松山市防災・危機管理課と協働し、アセスメント項目を以下に定めた。サポーターは訪問時にアセスメント項目について聞き取りを行い、iPad を用いてデータベースに記録した。

### 1. 健康

世帯状況

- 支援認定あり
- 介護認定あり
- 障害者・療育手帳あり
- 難病・傷病者
- 外国人
- アレルギー等

福祉・医療サービス

- 介護等の福祉サービスを受けている（自宅訪問）
- 介護等の福祉サービスを受けている（通所）
- 地域包括センターが近くにある
- 医療機関へ定期的に通院している
- 毎日、服薬している
- 医療機関・薬局へは支援者なしで通える
- 食事・食品の宅配サービスを利用している

在宅医療機器使用

- なし  あり
- 在宅医療機器
- 人工呼吸器  在宅酸素  透析
- インシュリン注射  その他

### 2. つながりの有無（共助）

つながり

- 近所に家族・親戚がいる
- 近所づきあいがある
- 町内会に友人・知人がいる
- 老人会等の活動に参加している

### 3. 支援要請先の認知（公助）

支援要請先

- 自治体の相談機関を知っている
- 地域の包括支援センターを知っている
- 地域の民生委員を知っている
- 町内会の委員・役員を知っている

### 4. 自宅・周辺の安全状況

築年数

- 未回答  不明  10年以内  11～20年
- 21～40年  41年以上（昭和56年以前）

安全対応

- 居間、寝室等、長時間利用する部屋で転倒のおそれがある家具がある

地震で設置場所から飛び出すおそれのある大型家電製品等（例：テレビ）がある

災害時に転倒して戸・ドアをふさぐおそれのある家具がある

台所で火を使う調理器具近くの家具が転倒したり、ガラスが飛び散って、調理器に近づけなくなるおそれがある

玄関や廊下で避難時に障害となる家具等がある

家具等の転倒で避難経路がふさがれるおそれがある

手すり、滑り止めシートがない等、階段の昇降における課題がある（在宅避難時の安全）

雨どい、雨水マス、側溝の破損や詰まりが水害時に大きな被害をもたらすおそれがある

ブロック塀等で災害時に転倒のおそれがある

まつやま総合防災マップ等の防災資料がない

消火器の設置がない

持ち出し用の貴重品をまとめて袋等に収納していない

備蓄対応

- 非常食（3日間程度）
- 飲料水（3日間程度）
- 応急医薬品
- 懐中電灯
- 携帯トイレ
- モバイルバッテリー（携帯電話用）

### 5. 災害情報の入手

災害情報の入手先

- 行政のHPやメールサービス
- その他サイト（ニュース、SNS等）
- 回覧板
- テレビ
- ラジオ
- 新聞
- 行政の配布物
- 口コミ・知人から
- 地区役員等からの連絡
- 学校・幼稚園・保育園等からの連絡
- 介護・障害サービス事業者からの連絡
- その他

アセスメント備考

（自由記述欄）

活動を通じて90件の有効な調査結果が得られた。以下に各項目の集計を記載するが、アセスメントについてはあくまで可能な範囲で聞き取りを行った結果であり、実態を厳密に反映するものではなく、今後の活動についての参考資料という位置づけで掲載するものである。

## 1. 健康

世帯状況 (N=90、重複回答含む)

世帯状況	レコード数
支援認定あり	16
介護認定あり	18
障害者・療育手帳あり	2
難病・傷病者	1
外国人	0
アレルギー等	3

全体の約 3 分の 1 が支援または  
介護認定有り

福祉・医療サービス (N=90、重複回答含む)

福祉・医療サービス	レコード数
介護等の福祉サービスを受けている (自宅訪問)	20
介護等の福祉サービスを受けている (通所)	15
地域包括センターが近くにある	13
医療機関へ定期的に通院している	48
毎日、服薬している	50
医療機関・薬局へは支援者なしで通える	40
食事・食品の宅配サービスを利用している	13

全体の半数以上が医療機関へ  
の定期的通院、服薬している

在宅医療機器使用 (N=90)

なし：89、あり：1 (インシュリン注射)

2. つながりの有無 (共助) (N=90、重複回答含む)

つながり	レコード数
近所に家族・親戚がいる	41
近所づきあいがある	63
町内会に友人・知人がいる	46
老人会等の活動に参加している	26

全体の約 3 分の 2 が近所づき  
あい有り

3. 支援要請先の認知 (公助) (N=90、重複回答含む)

支援要請先	レコード数
自治体の相談機関を知っている	16
地域の包括支援センターを知っている	24
地域の民生委員を知っている	69
町内会の委員・役員を知っている	36

全体の約 3 分の 2 が近所の民  
生委員と面識有り

4. 自宅・周辺の安全状況

築年数 (N=90)

築年数	レコード数
41年以上 (昭和 56 年以前)	54
21~40 年	27
11~20 年	2
10 年以内	2
未回答・不明	5

全体の半数以上が旧耐震基準  
の家屋に居住

安全対応 (N=90、重複回答含む)

安全対応	レコード数
居間、寝室等、長時間利用する部屋で転倒のおそれがある家具がある	49
地震で設置場所から飛び出すおそれのある大型家電製品等(例：テレビ)がある	27
災害時に転倒して戸・ドアをふさぐおそれのある家具がある	29
台所で火を使う調理器具近くの家具が転倒したり、ガラスが飛び散って、調理器に近づけなくなるおそれがある	31
玄関や廊下で避難時に障害となる家具等がある	11
家具等の転倒で避難経路がふさがれるおそれがある	18
手すり、滑り止めシートがない等、階段の昇降における課題がある(在宅避難時の安全)	7
雨どい、雨水マス、側溝の破損や詰まりが水害時に大きな被害をもたらすおそれがある	7
ブロック塀等で災害時に転倒のおそれがある	13
まつやま総合防災マップ等の防災資料がない	24
消火器の設置がない	40
持ち出し用の貴重品をまとめて袋等に収納していない	31

備蓄対応 (N=90、重複回答含む)

備蓄対応	レコード数
非常食(3日間程度)	32
飲料水(3日間程度)	37
応急医薬品	27
懐中電灯	58
携帯トイレ	13
モバイルバッテリー(携帯電話用)	2

全体の半数以上で転倒のおそれがある家具有り、半数弱の世帯で消火器の設置が無い

全体の約3分の1で非常食、飲料水の備蓄有り

災害情報の入手 (N=90、重複回答含む)

災害情報の入手先	レコード数
行政のHPやメールサービス	3
その他サイト(ニュース、SNS等)	18
回覧板	21
テレビ	51
ラジオ	24
新聞	17
行政の配布物	7
口コミ・知人から	21
地区役員等からの連絡	20
介護・障害サービス事業者からの連絡	7
その他	7

災害情報の入手はテレビが最も多い

アセスメント備考(自由記述欄)の記述例

- ・ 災害時無事を知らせるカードあり。災害時は無事なら玄関にカードを吊るす予定
- ・ 足が悪く家の中でも杖使用
- ・ 5階であり、エレベーターが止まったら避難困難
- ・ 近所付き合いが多く、近所の方が様子を見に来てくれたり遊びに来てくれるので助け合いの面では安心できる。
- ・ 避難先まで歩けるか実際に歩いてみたり、公民館で行われるイベントや、防災についてのセミナーに参加されている。
- ・ 民生委員を知ってはいるが、つながりが薄い
- ・ 防災用品を取り付け済みの箇所あり
- ・ 消火器あるが古い
- ・ パソコン使用しておりパソコンから情報収集
- ・ 寝室にスリッパ置いている(地域の防災活動参加時に言われたため)
- ・ 飲料水は最近変えたが、非常食は期限切れかも
- ・ 民生委員さんが近くに住んでおり、安否確認をしている。避難時にも一緒に行動する予定。

## 5. 活動の感想・評価

### 5-1 活動の感想

サポーターに帰着後、活動の感想を記入してもらった。以下に回答を抜粋して掲載する。

#### ① 活動をしての気づき

- ・ 避難するときはお一人で行くという感じが心配だった。
- ・ 包括さんが作ってくれた、玄関にぶら下げる無事ですというカードをお持ちだった（カードと一緒に笛ももらったとのこと）。
- ・ 非常用持ち出し袋は3分の2（の世帯）は持っていなかった。
- ・ おうちのいたるところに段差があった。
- ・ 民生委員さんと初めましてって言う方がいらっしゃった（このきっかけでつながった）。
- ・ いずれ寝る場所もベッドになったりとか、寝る場所も変わったりと、高齢者は生活スタイルも日々変わっていくから、1回じゃ足りないのでは？
- ・ 2件とも消火器が置かれていないご家庭だったので、火消しスプレーがあるといいかも。
- ・ 学生のコミュニケーション能力が高かった。
- ・ 周りとのつながりが強かった（石井東）。
- ・ 取り付けだけではなく、防災のアドバイスについても非常にありがたく思ってもらえた。
- ・ 突っ張り棒の取り付けをみなさん求めてらっしゃった。
- ・ つけたいのはやまやまだけど、できない人が多いな、と（店頭で試せるような売り場を作れたら）。
- ・ 意識高いけど、自分でできない方多かった。
- ・ 5,000円の枠をはみ出した分をお金出して買えないかと言われた。
- ・ 防災マップを喜んでくれた。
- ・ お手洗いの配慮を朝のガイダンス時に促した方が？（女子学生言い出しづらいかも）トイレ休憩をできるだけ取ってくださいと伝えるなど。
- ・ 食器棚が開かないようにするグッズがあればいいのでは。
- ・ 脚立が低いのが不便だった。
- ・ （突っ張り棒を）2つつけると最後は食事だけになってしまうのがもったいない。

#### ② 活動の周知について

- ・ すばらしい活動なので、多くの方へ知ってもらいたい。
- ・ お電話するときに「新たな備えサポーター隊」という名前が伝わらない。知らない番号出ない方も多い一日のお知らせが必要？
- ・ 企業さんの力でやっておられるところが広まっていない。
- ・ 3世帯通じてお金が必要だと思われていた。民生さんの方も完全に理解されていないのでは？
- ・ 民生委員向けの企画書がぺら1であれば、その後の口コミも広がりやすい（企業名も記載したものを）。

#### ③ 活動を通じての感想

- ・ 「人の役に立てた」という実感を強く持てて、とても清々しい気持ちになった。
- ・ 自分と違う年代の方々と交流できたことも楽しかった。
- ・ 学生ボランティアが初めて会った高齢者とちゃんとお話しができていて感心した。
- ・ 参加して自分事として考えることができた（防災士の免許を取っていただけだった）。
- ・ 楽しく活動できた。違う世代の方とお話しするのは楽しい。
- ・ サポーター隊として参加して、自身の防災意識も高まってきた。
- ・ 緊張もありつつ、楽しかった。
- ・ 民生さんのおかげもあってか、歓迎して入れてくれた。

#### ④ 支援世帯からの感想

- ・ 寝室にあるタンスが危険だと分かっていたが、一人では何も出来なかった。これからは安心して眠れる。
- ・ 防災の考えとかないけんねえ（何もしてないし、何も準備してないから）。

- ・ 阪神淡路大震災で被災した人だった、その経験があつて松山に戻られていた。今でも揺れたら怖いとのことだった。
- ・ 「こういう活動はお金払ってでもやって欲しいんよ。」と支援世帯の方から。

## 5-2 活動の評価

活動が 2 年目を迎え、関連機関の協力や関心の高まりから支援先世帯やサポーターの募集が大きく伸び、認定サポーター85名（前年 46 名）、100 件の世帯訪問（前年 56 件）ができた。活動成果として以下を挙げる。

1. 100 世帯を訪問し防災用品の取り付けや防災情報の提供により、新たな備えの推進ができた
2. 85 名のサポーター認定（前年度からの更新分等も含む）を行い、活動の担い手育成ができた
3. 支援の募集、サポーター募集・育成、訪問による防災用品提供・アセスメントという一連の流れが確立でき、スムーズな運営につながった
4. 松山市防災・危機管理課と協働してアセスメント調査を行い、支援先家庭の防災等の状況を把握することができた
5. テレビ（あいテレビ）、新聞（愛媛新聞）で紹介があり、活動の周知ができた（愛媛新聞記事を巻末に掲載）

## 高齢者宅防災チェック

### 松山「サポート隊」が訪問

地域の防災力を高めようと、産官学民でつくる「新たな備えサポート隊 in 松山」の隊員が21日、松山市内の高齢者宅を訪れ、家具の転倒防止や避難時の助言などを行った。

サポート隊は、県内外でホームセンターを展開するDCM（東京）の呼びかけで昨年6月発足したボランティア団体。実施主体とな

る実行委員会は松山市内の18社・団体で構成し、行政、愛媛大とも連携する。昨年度は56世帯の高齢者宅の防災を支援。本年度は延べ約150人の隊員が計100世帯を支援する予定。

同市古川南3丁目の長尾允子さん（86）宅では、隊員がたんすと食器棚の上に転倒防止器具を取り付け。防災マップや非常食なども手

渡した。長尾さんは「転倒防止器具を付ける作業は1人ではとても大変。これで見守ることができる」と話した。隊員でDCM西日本開発

部マネジャーの北田裕史さん（48）は「サポート隊の活動が家族や近所の防災を意識するきっかけになれば」と期待した。（西尾寛昭）



たんすの上に転倒防止器具を設置するサポート隊員  
21日午前、松山市古川南3丁目

©愛媛新聞社

新たな備えサポート隊 in 松山実行委員会 事務局（DCM株式会社内）

E-Mail : [sonaesup@diversityjapan.jp](mailto:sonaesup@diversityjapan.jp)

（報告書作成：一般財団法人ダイバーシティ研究所 [office@diversityjapan.jp](mailto:office@diversityjapan.jp)）